

第5回 2010年11月5日 授業の内容

★ corporative society VS competitive society

社会の本質を、相互依存的な協力的な組織とみるか、競争的で弱者と強者の対立するものとみるか。

①competitive society 権力、不平等、闘争の社会

カール・マルクス (Karl Heinrich Marx 1818~1883)：「人間の歴史は、階級闘争の歴史であった」。自らの利害を追求するものたちがPowerをめぐる分裂し、弱者と強者間の支配・対立が社会の基本的原理である。争う上で弱いもの同士が協力することや共同の利益のために協力することはあっても、人間の基本的な性格は強者と弱者の対立・闘争である。

What is desired? 自分が手に入れたいものによって動機付けられる。手に入れたいもの (desired) が充足されれば、またそれが合理的であれば、社会は合理的になる。(合理主義)

ここでは「強いものが正しい」という論理。社会の支配的なイデオロギーは支配者である強いもののイデオロギーである。支配者は自分の「正しさ」を正当化するため、また権力を維持、強化するための価値、つまりイデオロギーを創り、それに依存する。

②corporative society 協調、共有価値、moral consensus

社会は協力で出来ている。社会が共有している価値 (Shared Value) があるため斉一性が成り立つ。タルコット・パーソンズ (Talcott Parsons 1902~79) は『The Structure of Social Action 社会的行為の構造 (1937)』で合理主義を批判、「スペンサーは死んだ」と述べた。社会は、適者生存や「万人の万人に対する闘争」ではなく、人々は自分の行為の目的だけを達しようとして行為するのではない、社会で「望ましいdesirable」と共有された価値が人々の行為を一定の方向へと導く。その「価値体系」が社会のもっとも根幹を成す部品である。社会は生物の有機体のように自ずと秩序が形成され、各部分は相互依存的であり、全体の存続のために機能している。

What is desirable? つまり「望ましい」ものが社会の最も根本的なもので、「望ましいもの」「正しいもの」のために何かを犠牲にしながら我々は行為している。その「正しい」価値に従っているため、報酬をもらったり、ここにいられるわけである。

しかし、機能主義は安定と秩序を固定することにだけ関心があり、社会内に存在する分裂や葛藤、不平等を生み出す要因は看過していると批判される。

★同性婚

日本で同性婚禁止の根拠は日本国憲法「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し夫婦が同等の権利を有することを基本として、相互の協力により、維持されなければならない」にある。

結婚は正当な、法的な結合であり、一定の手続きを通じ、結合を保護する役割を果たすため、我々が思うほどプライベートなことではない。婚外恋愛や婚外子などが保護されなかったり、裁判の対象になったりするのは「結婚」が保護されているという証拠である。

★市民権運動と同性愛保護問題

同性愛保護の市民権運動の難しさは、社会の様々な団体、集団 (軍隊、教会など) が同性愛に対してどのようなスタンスをとるのが異なっているのと、同じ集団でもほかの差別撤廃運動に対するスタンスと同性愛保護運動に対するスタンスが異なっているという事、また同性愛問題は「在日問題」のように目に見えない問題であるという点があげられる。

同性愛問題は目に見えないため、同性愛保護運動の戦略は名乗り出ることであった。Coming outすることによって自らも自分のアイデンティティを肯定し認めると同時に、同性愛者たちは少数の変な人々ではなく、たくさん存在しているという事を見せ、同性愛者たちを包容してくれることを要求する戦略を展開してきたのである。

★次回：「The Times of Harvey Milk」 1984 アメリカ映画  
映画鑑賞後、11月18日までにBBS上に課題を提出をする。